

平成 21 年度農林水産物等海外販路創出・拡大事業
(国産材海外展示・商談活動「中華人民共和国」)実施報告書

2009 中国国際（上海）木造エコ住宅博覧会
日本パビリオンの出展実施活動と結果

平成 22 年 3 月

委託者：農林水産省林野庁

受託者：日本木材輸出振興協議会

当会は、農林水産省の農林水産物等海外販路創出・拡大事業（国産材海外展示・商談活動）に係る「2009 中国（上海）国際木造エコ住宅博覧会」への出展・商談事業を受託し、出展前のプロモーション、会期中の出展・商談、広報宣伝並びに事後フォローアップ活動を事業計画に基づいて行った。その実施概要は以下のとおり。

1．日本パビリオンの出展・商談

当会は行政指導の下、8月18日（火）～21日（金）に上海市浦東新国際博覧センターで開催された「2009 中国（上海）国際木造エコ住宅博覧会」（主催者：上海市建築材料協会、万博グループ上海現代国際展覽有限公司）に国産材の日本パビリオンを出展し、出展の10企業・団体とタイアップして、国産材輸出拡大に寄与する広報、商談活動を行った。



写真1．日本パビリオンの出展状況

日本パビリオンは135m²（15小間に相当）あり、その躯体は国産材のLVLの柱、梁、間柱で組み立てられた。パビリオン内には、高度な技術を駆使し、国産材の特徴を現した①スギ木造住宅2階建躯体、②スギ和室キット、③スギの大断面構造材及び軸組工法プレカット材の接合部、④構造用LVL材、⑤スギ・ヒノキ材の内外装材（フローリング材、サイディング材、腰板、壁板）、⑥スギ等の木製品（燻煙熱処理材のベッド、デザイン性に富む家具等）、⑦不燃加工木材、⑧ヒノキの浴槽、⑨木造住宅模型等各種の国産材製品を多数展示した（写真1）。なお、出展者別の出展品等は、表1のとおり。

表1．出展各社の出展目的と出展品

出展企業	都道府県	出展目的	出展品
池見林産工業株式会社	大分	スギ、ヒノキの内外装材の販路拡大	ヒノキの床暖房用フローリング、桧風呂、壁板等
伊藤建友株式会社	秋田	耐震金具を使用した国産スギの木造工法システムのPR及び販売拡大	スギを使用した軸組工法の耐震金具及びシステム部材、パネル
ウッドワイステクノロジー株式会社	静岡	天竜材による構造用集成材、木造建築システムのPR及び普及	独自工法による構造躯体及びスギ等の内装材
(財)大川総合インテリア産業振興センター／福岡県産品輸出促進協議会	福岡	地域国産材のスギを使用した木材製品のPR及び販路開拓	スギの木材製品
輝北プレスウッド株式会社	鹿児島	構造用集成材を使用した住宅部材及び建築工法のPR	在来工法軸組部材、プチモデルハウス、RH工法接合部材、木造住宅模型
株式会社粉河	和歌山	富裕層向けの本格的和室の内装部材の販売拡大	スギを使用した和室、建具、座椅子
ドリーミィ大和株式会社	鹿児島	燻煙熱処理したスギ内装材のPR及び販路拡大	燻煙熱処理したスギの木製家具、内外装材（壁板、フローリング）
日田材海外出荷対策協議会	大分	日田材による木材製品のPRと販路開拓	スギ、ヒノキ等の内外装材、足場板、椅子、ホームバー
株式会社フジヤマ	新潟	スギ等の不燃加工材の販売促進及び代理店の確保	スギ、ヒノキに耐熱接着剤や不燃液を塗布した難燃、断熱の板材
宮崎県森林組合連合会	宮崎	宮崎県産スギ製品の販路拡大及びPR	スギの内装材、木造住宅骨組模型

日本パビリオンが多くのバイヤーや来場者から注目され、展示会の中で一番人気の場所となった（写真2）。多数のバイヤーが日本パビリオンに立ち寄り盛況裡にPRや商談を進めることができた。日本パビリオン入場者数は約10,000人にのぼり、会期中の商談件数は286件、うち商談継続件数103件（成約の可能性を含むもの）であった（表2）。

表2．出展各社の商談状況

出展企業	商談等の状況
池見林産工業株式会社	商談件数33件のうち、上海、北京の建材関係者との商談継続可能件数5件あり、今後、これらの者を当該社に招聘し、成約に結びつきたいとしており、概ね成約にいたる感触を得ている。また、ヒノキ風呂4件ほぼ成約。
伊藤建友株式会社	商談件数5件、うち、上海住宅建築関係者との金具システムの提供等の商談継続可能件数4件あり、今後、これらの者との商談を継続

	するが、成約の感触は未定。
ウッドワイステクノロジー株式会社	商談件数 3 件、うち、集成材業者からロケット工法システムを使用したいとものはあるが、成約についての感触は未定。
(財)大川総合インテリア産業振興センター 福岡県産品輸出促進協議会	商談件数 3 件、うち、上海市ホテル経営者から商談継続可能件数 1 件あり、現地、代理店があればすぐにでも購入したいとしている。デザイン性については、高い評価をする者が多かった。
輝北プレスウッド株式会社	商談件数 15 件、うち商談継続可能件数 4 件あり、上海不動産関係者からはスギ 2 階建 50 戸や貿易会社からスギ 2 階建ての社宅建設、四川省からはスギ木造材料を購入したい等あるが、問題は価格の開差である。
株式会社粉河	商談件数 60 件、うち商談継続可能件数 28 件あり、今後、これらの者を当該社の上海の展示場に来訪願い、更に商談を詰めることとしている。高い成約の感触を得ているとのこと。
ドリーミィ大和株式会社	商談件数 86 件、うち商談継続可能件数 30 件あり、これらの 9 割が展示したスギ暖房ベッドであり、今後、通関料等を詰めた上で、具体的商談を継続していくこととしている。また、燻煙熱処理したスギ内装材を大々的に扱いたいとする建材業者もあり、当該社に来社願い、現物熟覧のうえ、商談を進めることとしている。
日田材海外出荷対策協議会	商談件数 39 件、うち商談継続可能件数 19 件あり、これらの者については、アンケートを行っており、この分析により、今後、商談を継続するが、成約の感触は未定。
株式会社フジヤマ	商談件数 28 件、うち商談継続可能件数 9 件あり、これらの者は、木造床材、木製ドアの建材関係者であり、中国での防火認定のクリアや、価格の問題、販路の構築等を検討する必要がある。成約の感触は未定。
宮崎県森林組合連合会	商談件数 14 件、うち、上海及び青島の建築関係者から内装材及び木造住宅建設についての商談継続可能件数 3 件あり。価格の問題がネックで、今後、継続検討する必要がある。成約の感触は未定。

(注：本商談状況は、出展期間中に聞き取り結果をまとめたものである。)

なお、今回の木造エコ住宅博覧会と併催の「第 20 回中国（上海）国際建材・インテリア展覧会」に合わせて、全体の展示面積は 30,000m²にのぼる。出展者数は 536 社、うち海外 68 社（出展国：日本、カナダ、米国、韓国、ドイツ、フランス、イタリア、オーストリア、イギリス、スイス、デンマーク、台湾、香港等 14 カ国・地域）あった。一般消費者ではなく、専門業者向けの本展示会の来場者数は 27,856 名、うち海外 2,018 名であった。



日本パビリオンの正面



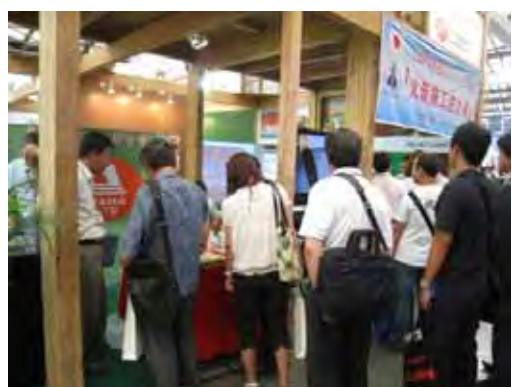
出陣式事務局長挨拶



出陣式出展企業代表挨拶



注目される日本パビリオン（左は受付状況、右は会場状況）



株式会社 ジャマ（左）、ウットリスT（右）の出展状況



株式会社 粉河の出展状況



輝北プレウッド(株)の出展状況



宮崎県森林組合連合会の出展状況



伊藤建友(株)の出展状況



池見林産工業(株)の出展状況



ドリーミー大和(株)による島田林野庁長官への説明



福岡県による島田林野庁長官への説明



事務局による住宅嗜好アンケート実施状況 共通スペース内の商談



写真2. 日本パビリオンの展示・商談の様子

2. 商談会

会期中の8月18日(火)午後2時～4時、上海景縁国際酒店2階会議室(上海市浦東新区浦東大道2333号)にて日本産木材&木材技術商談会を開催した。

商談会では、日本木材輸出振興協議会小合事務局長の挨拶、中国建築学会木構造専門委員会会長 王 偉教授(ハルビン工業大学)の挨拶、参加各社の自己紹介を行った後、以下のようにペアをセッティングし、マッチング方式で木造建築案件や内装材料の取引について具体的商談を進めた(写真3)。

- | | | |
|----|-----|---|
| 1組 | 中国側 | ・ Tecsun(蘇州)Homes Co.,Ltd
・ モーホ宜家木業有限公司 |
| | 日本側 | ・ 輝北プレスウッド(株)
・ 伊藤建友(株) |
| 2組 | 中国側 | ・ 上海森連木業発展有限公司 |
| | 日本側 | ・ 池見林産工業(株)
・ 宮崎県森林組合連合会 |
| 3組 | 中国側 | ・ 営口小雨集成住宅有限公司 |
| | 日本側 | ・ ウッドワイステクノロジー(株) |
| 4組 | 中国側 | ・ 大連双華木業有限公司 |
| | 日本側 | ・ (株)フジヤマ
・ 大川総合インテリア産業振興センター/福岡県産品輸出促進協議会 |



写真3. 商談会の実施状況(上: 合同説明、下: マッチング商談)

3. セミナー

会期中の8月19日(水)午後1時30分～5時、上海景縁国際酒店6階会議室(上海市浦東新区浦東大道2333号)にて、デベロッパー、建築・内装会社、木材加工会社、建築・内装関係専門家、設計士、建築士等49名に対し、日中木材&木造技術セミナーを開催した(写真4)。



王教授開会挨拶



川田領事来賓挨拶



出展者製品説明



基調講演



セミナー受講状況

写真4. セミナーの開催の様子

開催プログラムは以下のとおり。

- ① 開会挨拶
 - ・中国建築学会木構造専門委員会会長 王 偉 ハルビン工業大学教授挨拶
- ② 来賓挨拶
 - ・在上海日本国総領事館 川田 勉 領事
- ③ 基調講演
 - ・「軸組工法住宅の魅力と大空間を創造する木材利用例」
日本木材総合情報センター技術開発室長 中井 孝 博士
 - ・「中国木造市場の現状と展望」
中国建築学会木構造専門委員会 副秘書長 程 少安 技師長
- ④ 日本木造技術紹介
 - ・耐震金具工法：伊藤建友(株) 代表取締役 伊藤 佐喜男
 - ・リゾートホテル建設への木材利用事例：
宮崎県森林組合連合会 総務部長 田之上 裕明
 - ・大断面集成材と RH 工法：輝北プレスウッド(株) 取締役 徳留 隆
 - ・大分県日田市の木材利用：日田市林業・木材産業振興課課長 吉田 清士
 - ・地球にやさしい木造住宅の建て方：ウッドワイステクノロジー(株) 新堀 耕司

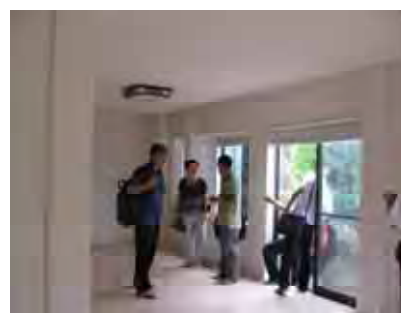
4．モデルハウス見学会

会期中の8月20日(木)午前9時～11時30分、国産材を利用した木造住宅(上海市嘉定区江橋鎮曹安路3006)にて、モデルハウス見学会を開催した(写真5)。

デベロッパー、建築・内装会社、木材加工会社、建築・内装関係専門家、設計士、建築士等38名参加者に対し、モデルハウスの概要を説明後、スギ集成材を使用したRH工法による軸組工法の構造躯体及び国産スギ・ヒノキを使用した内装に直に触れ・見てもらい、スギ等国産材の温かみのある材感や耐震・安全・健康性を踏まえた安全・安心設計・施工の木造住宅を体感してもらった。



モデルハウスの外観と内部



モデルハウス説明

写真5．モデルハウス見学会の開催の様子

5. 意見交換会

会期中の8月20日(木)午後2時～5時、上海木材ビル3階会議室(上海市唐山路923号)にて、国産材輸出意見交換会を開催した(写真6)。

意見交換会では、日本木材輸出振興協議会 小合事務局長の挨拶、上海木材協会 徐文華会長の挨拶、参加各社の自己紹介を行った後、現地の業界関係者と出展者との間で日本産木材・木造住宅、木製品の中国への輸出における諸々の質疑事項や問題点等について、忌憚のない意見交換を相互に行い、相互理解とパートナーシップの構築を図った。

意見交換会の参加者は以下のとおり。

- 中国側
- ・上海木材協会 会長 徐文華、秘書長 汪少芳
 - ・上海福人林産品卸売市場 副社長 謝小斌
 - ・上海東華環球木業建材卸売市場 責任者
 - ・上海市エコ建築促進会 副秘書長 江天梅
 - ・上海市家具研究所 教授 許美琪
 - ・上海市室内装飾協会 秘書長 鄔国明
 - ・上海緑地グループの設計士 ほか5名

- 日本側
- ・伊藤建友(株) 代表取締役 伊藤 佐喜男
 - ・輝北プレスウッド(株) 取締役 徳留 隆
 - ・宮崎県森林組合連合会 総務部長 田之上 裕明、広報員 夏 樹庭
 - ・(株)フジヤマ 代表取締役 藤井 泰太郎
 - ・福岡県産品輸出促進協議会 木材流通係長 佐藤 彰、主任技師 片桐 幸彦



意見交換会に参加する日本側(左)と中国側(右)



上海木材協会 徐文華会長



上海市エコ建築促進会 江天梅副秘書長

写真6. 意見交換会の開催の様子

6. 広報宣伝

日本パビリオンの出展・商談の効果を高めるため、以下の宣伝活動を行った。

①事前告知

中国のデベロッパー、建設・内装会社、設計士、建築士、木材加工会社、行政・研究機関の関係者を対象に、本事業の日本木材相談上海窓口、北京窓口を通して、「日本木材」(中国語版)を題とする国産材宣伝パンフレット(300人分)、PR用入場券(10,000人分)、出展各社の概要の事前配布を行うとともに、現地関係ウェブサイトを通して日本木材の出展・商談関係情報を配信した。

図1は多様なPRツールによる日本木材パビリオンの出展活動に関する事前告知を行った様子である。その広報効果を測定した結果は以下のとおり。

測定日：2009年9月13日 午前9時30分

測定ツール：Google 中国

検索言語：中国語

検索キーワード：上海現代国際展覽有限公司、日本木材

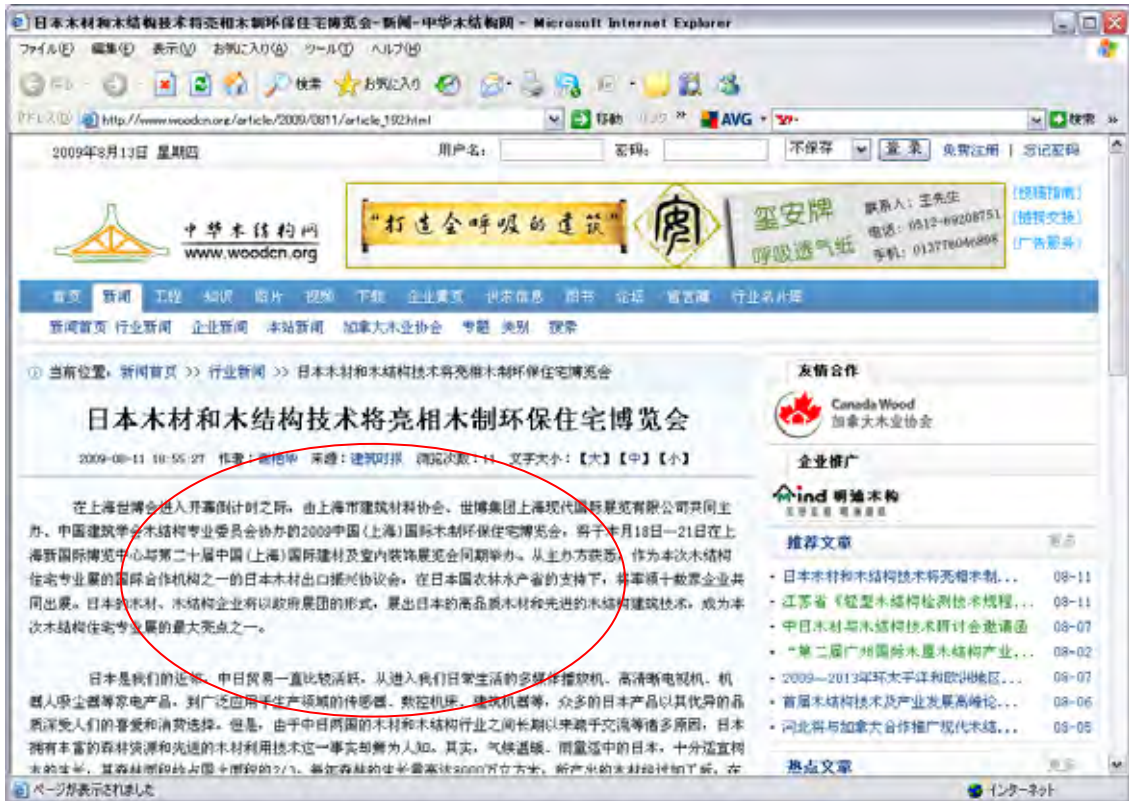
検索結果：関連項目 339,000件、10の表示画面(100ページ)までの関係ページ 18(18%)



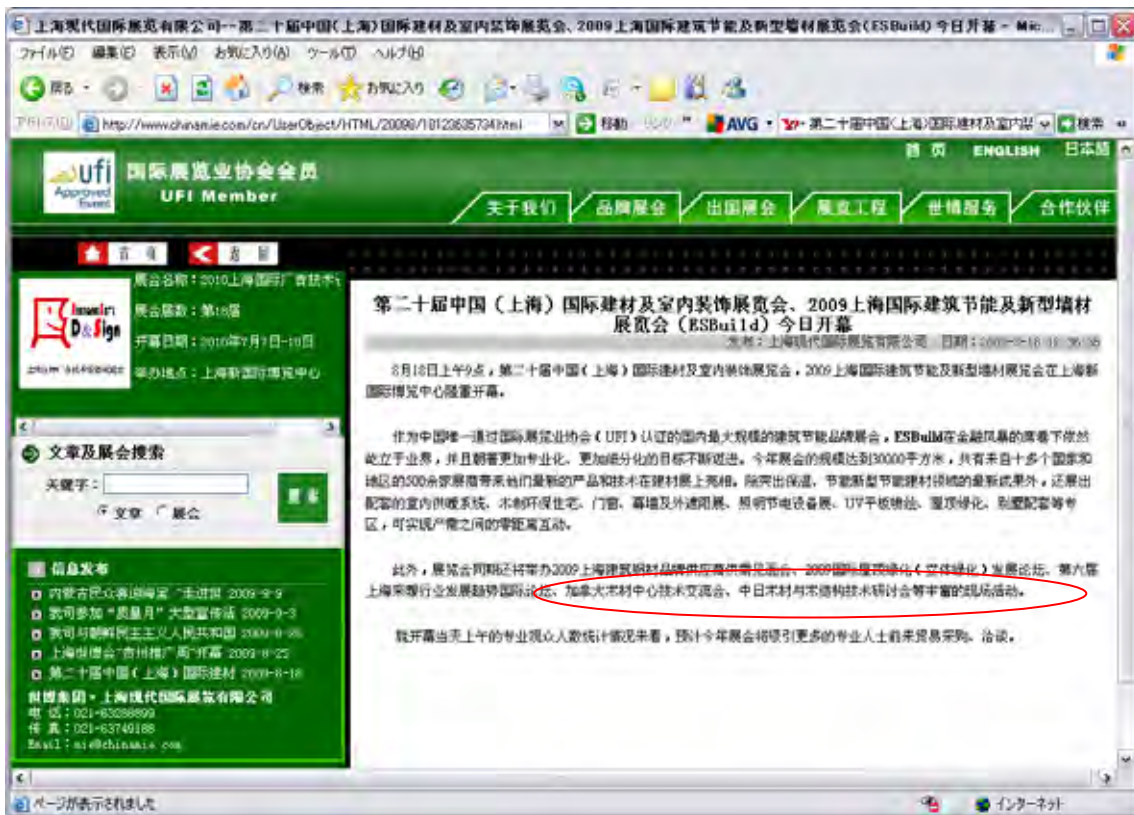
中国のバイヤー等への日本木材情報や国産スギ、ヒノキの木目カードの事前配布



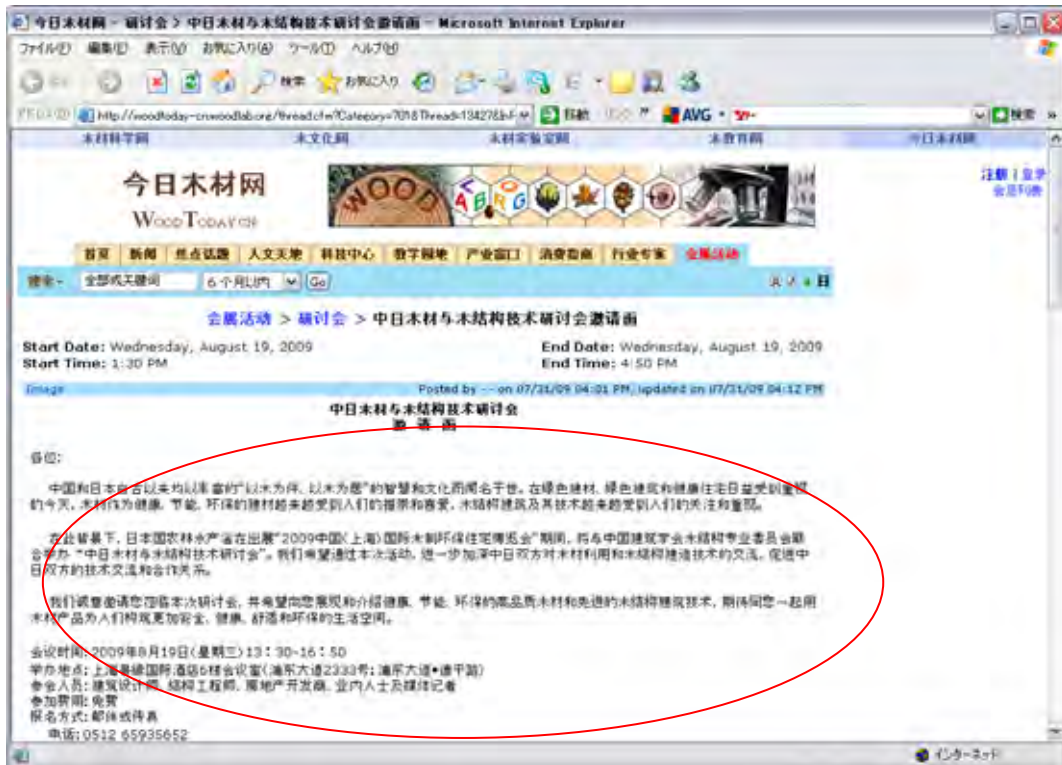
日本パビリオンの出展、セミナー開催情報を刷り込んだ展示会入場券の制作と事前配布



日本パビリオン出展に関する転載（中華木造ウェブによる）



セミナー開催告知（展示会専用ウェブ掲載）



セミナー開催概要転載（今日木材ウェブによる）



セミナー、モデルハウス見学会開催情報の転載（木造研究者 bbs による）

図1. 多様な宣伝ツールを用いた日本木材の展覧活動の事前告知

また、日本の木材資源、国産材製品、木材利用技術、日本パビリオンの出展・商談活動等に関する告知広告や企画記事を中国の住宅建築専門誌、建材裝飾新聞への掲載により、デベロッパー、建設・内装会社、木材加工会社並びに建築・内装関係の専門家、設計士、建築士などのメインターゲットを始め、多くの中国消費者に国産材製品及び木造住宅の高品質性、高機能性、快適性、健康性などを認知してもらい、国産材製品の認知度向上を図った（図2、図3、図4）。



Japan Wood

日本杉
Japanese cedar

日本扁柏
Hinoki cypress

日本木材、构建高品质绿色建筑

诚邀您参观 E2B8 展台

并莅临“中日木材与木结构技术研讨会”

时 间：2009年8月19日 13:30-16:50

地 点：上海豫园国际酒店6楼会议室
(浦东大道 2333号; 浦东大道 - 德平路)

主 办：日本国农林水产省、中国建筑学会木结构专业委员会

日本木材出口振兴协议会 DREAMY 尤和 株式会社 株式会社 FUJIYAMA 木材材料株式会社 木材加工株式会社 木材加工株式会社	株式会社 PRESS WOOD 株式会社 上海智河木制品有限公司 京都五森株式会社 林业法人木材部全产业研究中心 WOOD WISE TECHNOLOGY 株式会社
--	--



日本国农林水产省
Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries

日本木材出口振兴协议会
Japan Wood Products Export Promoter Council

〒112-0004 東京都文京区后乐园1-1-12 楼本大樓2F 电话：+ 81-3-5844-0275(总机) 传真：+ 81-3-5816-9062
E-mail: info@j-wood.org URL: http://www.j-wood.org

图2.「住宅産業」(2009.8)に掲載された国産材出展のカラー広告



图3.「建材と裝飾」(2009.8.10)に掲載された国産材出展の企画記事



图4. 中国のウェブに転載された前記企画記事

②出展中の広報活動

日本パビリオンの出展中、セミナー・商談会・モデルハウス見学会の開催時に、出展広報用パンフレット（3,000部）の配布、「ウッディな日本、ウッディな生活」というPR用DVD（中国語版）の上映を行い、来場者に対し国産材や出展した木材製品に対する理解・認識の向上に努めた。

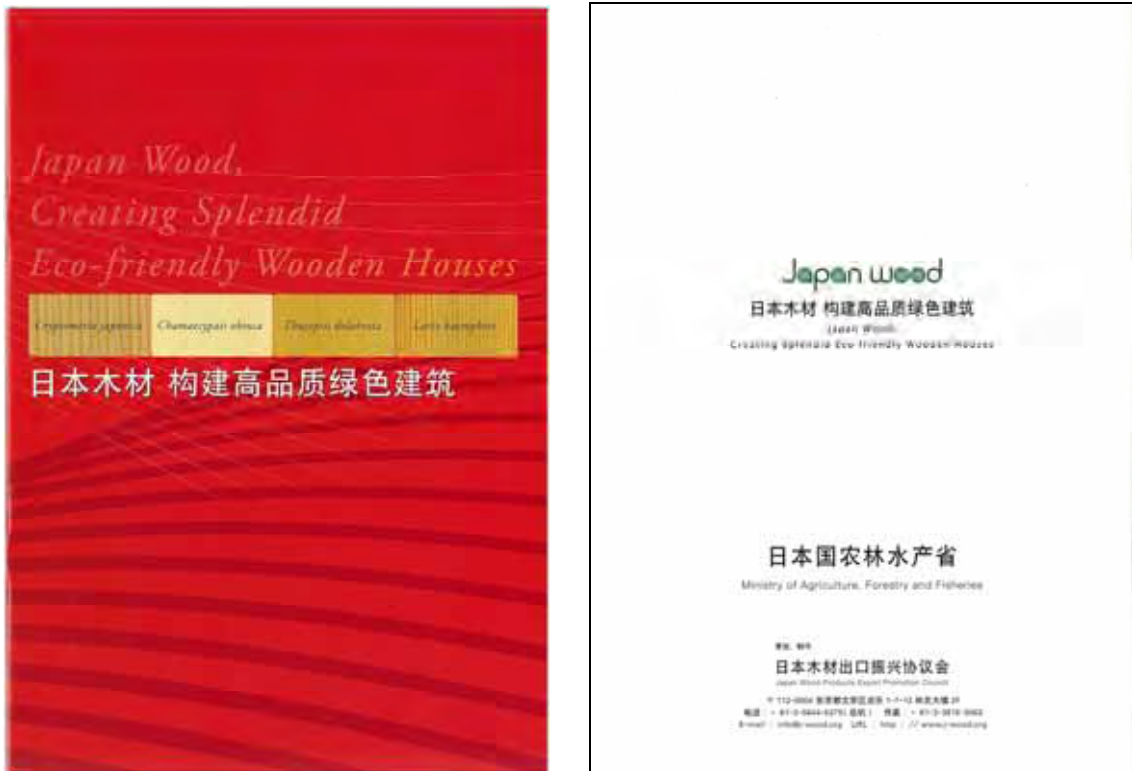


図5．出展広報用パンフレット（全28ページ）

③出展後の広報

日本パビリオンの出展状況、セミナー、モデルハウス見学会を取材、撮影した画像等を編集後、国際木文化学会の「今日木材網」ウェブ（woodtoday-cn.woodlab.org）を通じてインターネット配信を行った（図6）。

また、日本パビリオンの展示、セミナー、商談活動に携わった現地のキーパーソン（上海木材協会専門家）により作成してもらった体験記事を「住宅産業」専門誌（中国住宅城郷建設部住宅産業化促進センター）の2009年第10号に掲載し、国産材製品の認知度向上に努めた（図7）。



図6 . パビリオンの出展、セミナー開催状況等を撮影した画像のインターネット配信



図7 . パビリオンの出展、セミナー開催状況等を撮影した画像のインターネット配信



上海窓口にて設けられている広報資料・サンプルのコーナー



北京窓口を担当する会社が設置した液晶パネルに映した国産材の紹介画像

図8．本事業の日本木材相談上海窓口、北京窓口による国産材の出展後の広報事例

7．事後支援

当協議会は、出展各社の出展、商談効果を高めるため、各社に対し中国木材需給、流通、商慣習など関連情報（図9）を提供するとともに、出展品の輸送をサポートした（図10）。また、出展終了後、電話、メールによる出展各社へのフォローアップ、本事業のための日本木材上海相談窓口から伝えてきた現地バイヤーの注文、問い合わせへの対応など、現地バイヤーに対するサポート、出展者に対する商談支援（図11）、出展者以外の輸出志向のある者に対する情報提供を行った結果（図12）、以下の直接的な成果を遂げた。今回の出展・商談活動により実りのある事業成果を得るよう、今後、このようなフォローアップ活動を引き続き行い、国産材の輸出推進に努める。

- ・ 商談会に参加した中国側の大連双華木業有限公司は出展企業の2社（K社、W社）からプレカット機械、集成材製造ラインを輸入した（輸出額：合計で6,500万円）。さらに、現地における日本木造住宅の建設、販売に関する協力関係ができた。
- ・ 出展企業のD社は大連のデベロッパーによる「観光ホテル+70棟分譲戸建て住宅」の木造団地（敷地面積：60,000万㎡）の開発計画に参加し、現在、約4,000万円の請負業務に取り組んでいる。
- ・ 出展企業のE社は北京で現地企業と連携してスギ・ヒノキのフローリングを販売するチェーンストア4店舗を2月に立ち上げ、本格の事業展開を開始し、既に3件（1件当たり50坪程度の国産内装材相当量）の商談をまとめた。また、上海においても現在、5月オープンを目指して1店舗の準備をすすめる。

- ・ 韓国における木造体育館の建設計画に関して、「国産材を中国への輸出+中国大連での集成加工+中国から韓国への輸出+韓国での建設」という事業展開を進めている。
- ・ S社は、上海市内のRCマンションにおいて、スギ材使用の和室化の10件の商談をまとめた（1件当たり：8～10畳の和室化）。また、万博日本館において、スギ等国産材使用の和室工事を施工。
- ・ M組合は、上海市レストランチェーン店経営者に新店舗展開時には、スギ材使用を働きかけており、当該関係者にスギ材使用の事例店舗等を見てもらおうべく、3月に日本への招聘の手続きを現在進めている。



図9 . 出展各社への関連情報の提供例



图 1 0 . 出展各社への出展品輸送の支援事例



图 1 1 . 現地相談窓口から伝えてきた現地バイヤーからの注文、問い合わせ



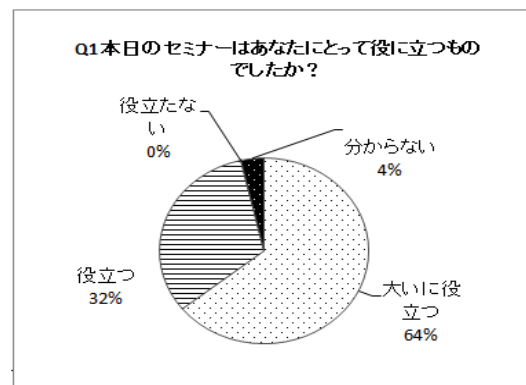
図 1 2 . 出展者以外の輸出志向のある事業者への情報提供事例

8 . セミナー参加者に対するアンケート調査

セミナー参加者にアンケート用紙を配布し、感想及び意見を伺うことができた。49 名の出席があり、28 枚のアンケート用紙を回収できた。その結果は、以下のとおりである。

問 1 「日中木材&木造技術交流会」セミナーの有用性

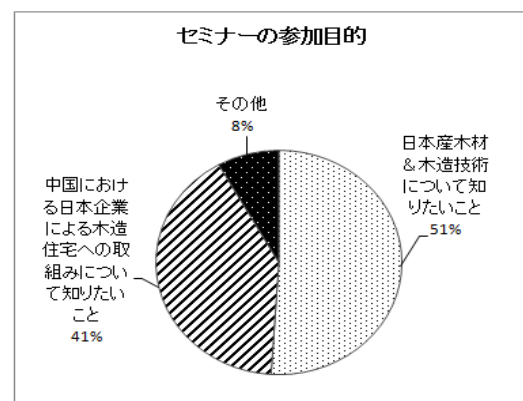
問 1 の設問では、64%と半数以上の参加者がセミナーを「大いに役立つ」と高く評価していることがわかる。続いて「役立つ」との回答が 32%で、「わからない」が 4%あったものの、「役立つ」との回答がなかったことから、全体的にみてセミナーは現地参加者にとって役立つようである。



問 2 セミナー参加の目的と満足度

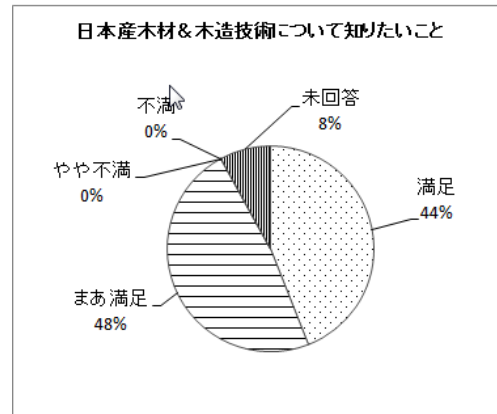
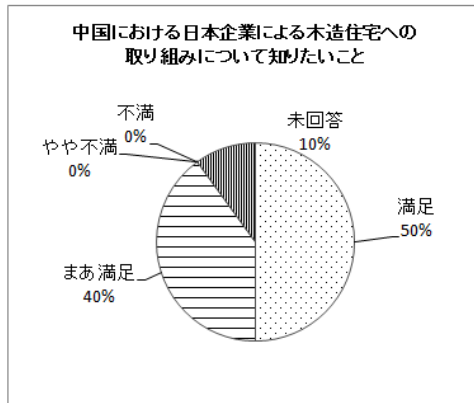
セミナーの参加目的は大きく 2 つに分かれ、ひとつは「日本産木材&木造技術について知りたいこと」が 51%、2 つ目は「中国における日本企業による木造住宅への取り組みについて知りたいこと」で 41%となった。「その他の目的」も 8%ほどみられた。

それぞれの目的の満足度をみると、「日本産木材&木造技術について知りたいこと」に対す



る満足度は、「満足」が44%、「まあ満足」が48%でほとんどの参加者が満足していることがわかった。「不満」「やや不満」との回答は見られず、「未回答」が8%との結果であった。

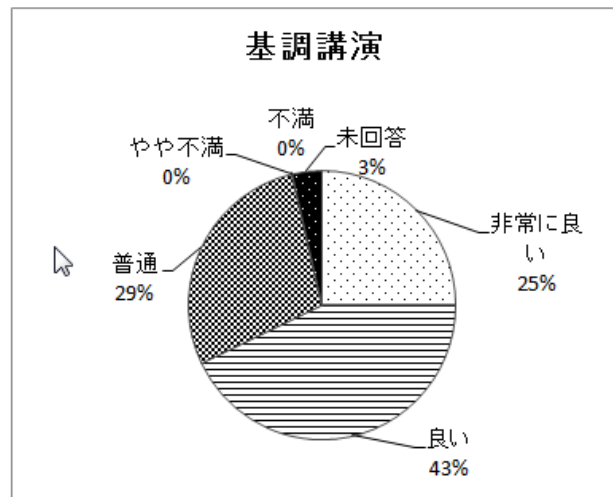
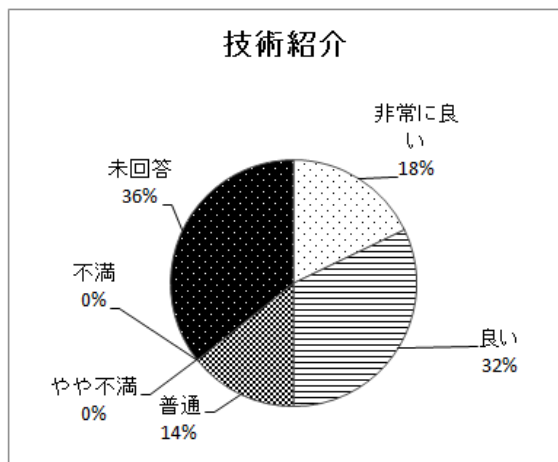
また、「中国における日本企業による木造住宅への取り組みについて知りたいこと」に対しては「満足」が50%、「まあ満足」が40%、「未回答」10%、「不満」「やや不満」ともに0%であった。



問3 セミナーについての評価（各項目について単一選択）

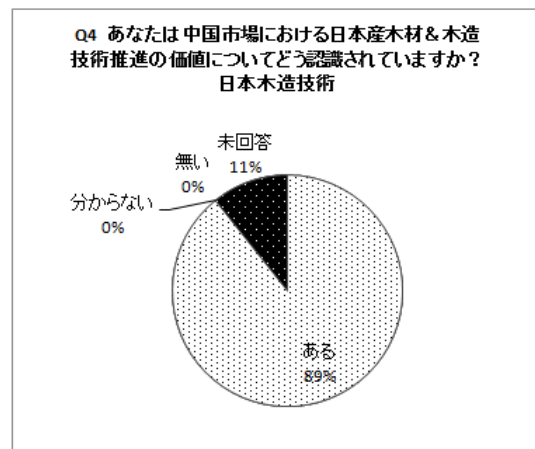
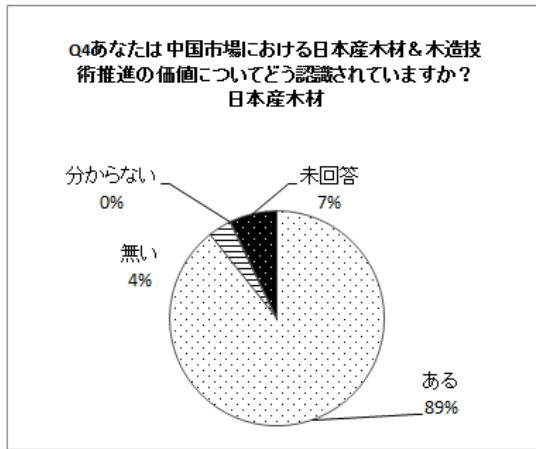
基調講演についての評価は「非常に良い」が25%、「良い」が43%

「普通」が29%、「未回答」3%と続き、「不満」「やや不満」は見られなかった。



技術紹介についての評価は「非常に良い」が18%、「良い」が32%で半数の参加者が満足したようである。一方「普通」14%、「未回答」も36%とあったものの、「不満」「やや不満」との回答はなかった。

問4 中国市場における日本産木材&木造技術推進の価値についての認識

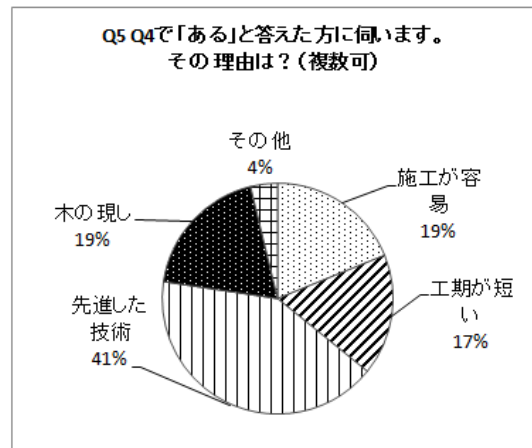


日本産木材については89%の参加者が価値を認めていることがわかった。一方、価値が「ない」との回答も4%と少数ながら見られたが、ほとんどの参加者は日本産木材を高く評価しているようである。

日本木造技術については、価値が「ある」との回答が日本産木材と同じく89%、価値が「ない」との回答は0%であった。

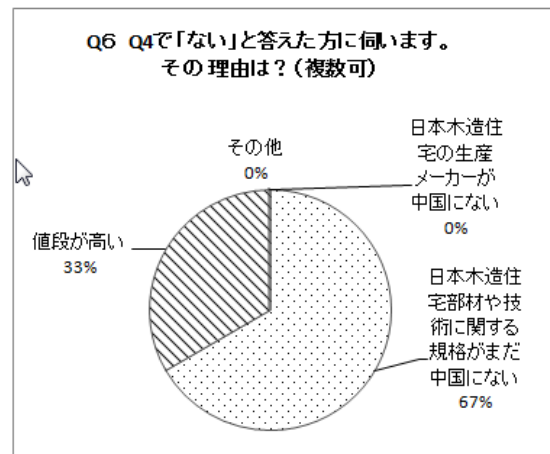
問5 問4で「ある」と答えた理由（複数可）

価値が「ある」との回答者に理由を伺ったところ、「先進した技術」が最も多く41%、「施工が容易」「装飾性」が並んで19%、つづいて「工期が短い」17%、「その他」4%という結果となった。



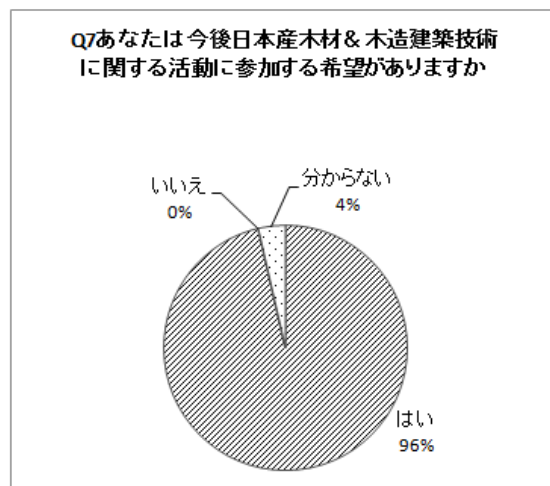
問6 問4で「なし」と答えた理由

価値が「ない」との回答の理由は「日本木造住宅部材や技術に関する規格がまだ中国にない」が最も高く67%、続いて「値段が高い」33%であった。



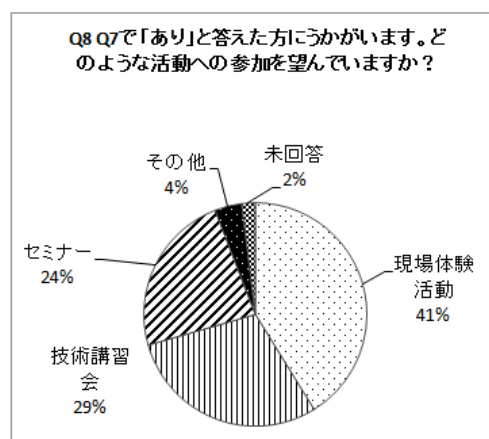
問7 今後の日本産木材&木造建築技術に関する活動に参加する希望

今後の日本産木材&木造建築技術に関する活動についての設問では、「わからない」4%を除くほぼ全員の96%の参加者が、参加を希望すると回答した。



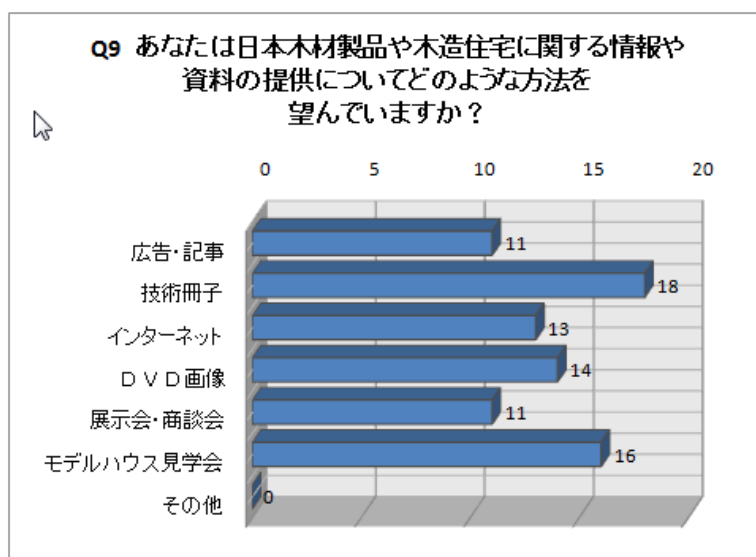
問8 問7で「あり」と答えた方の、今後参加してみたい日本産木材・木造建築技術の活動（複数可）

今後参加してみたい活動内容を聞いてみたところ、「現場体験活動」が、最も高く41%、続いて「技術講習会」が29%、「セミナー」が24%、「その他」が4%であった。



問9 希望する日本木材製品や木造住宅に関する情報や資料の提供方法（複数可）

資料の提供方法については、「技術冊子」が最も多く18名、次に多かったのが「モデルハウス見学会」の16名であった。続いて「DVD画像」が14名、「インターネット」が13名、「広告・記事」「展示会・商談会」はそれぞれ11名という結果となった。



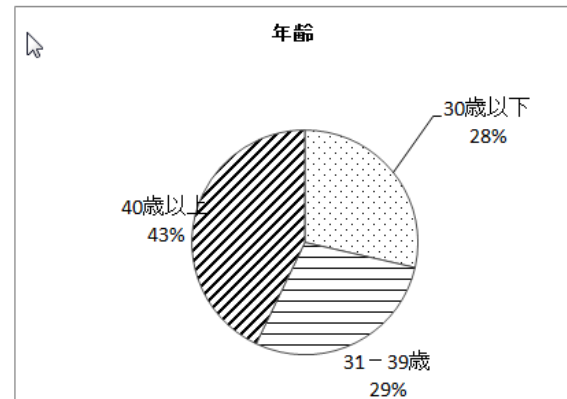
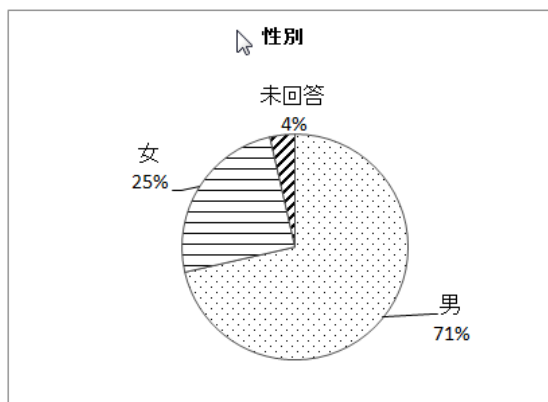
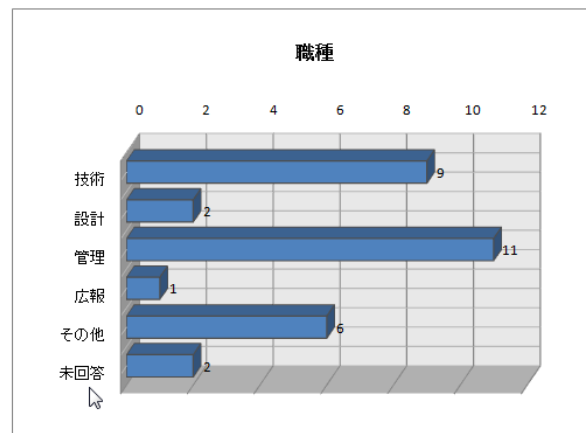
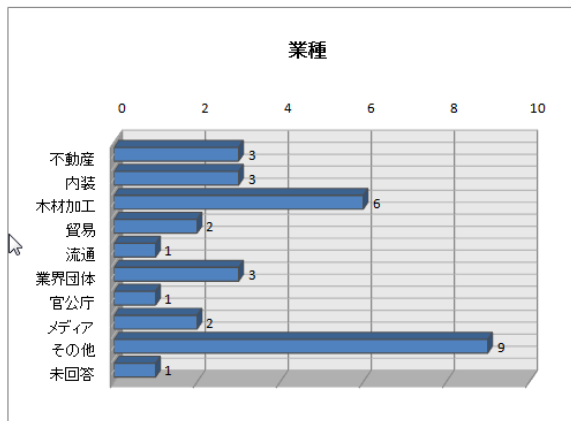
なお、回答者の回答者属性は以下のとおり。

業種：回答者を業種別にみると「木材加工」が6名、「不動産」「内装」「業界団体」がそれぞれ3名、「貿易」が2名、「官公庁」「流通」が1名ずつであった。

職種：職種は「管理」が11名と最も多く、次に「技術」の9名、「設計」2名、「広報」1名であった。

性別：性別は男性が多く71%、女性が25%であった。

年齢：年齢は40歳以上が最も多く43%、31歳から39歳が29%、30歳以下が28%であった。



9. 住宅嗜好に関するアンケート調査

出展中の8月18日、19日、20日の3日間に日本パビリオンにおいて、以下の4様式8タイプ（都市型①、②、和風①、②、都市近郊型①、②、郊外型①、②）の住宅に関する嗜好調査を行った。なお、国産材の出展品について熱心に質問したりしてくれた来場者の中からランダムに選ばれた者を調査対象者とした。

回答者486名に対し、8タイプの住宅の中で一番憧れるタイプと一番不人気なタイプを選んでもらった。その結果、和風①の庭付き2階建て和風タイプが最も人気を呼び、それに次いで、和風②、郊外型①とも人気が高かった。一方、回答者のうちの一部（62名）が、8タイプの中から一番不人気なタイプを回答してくれたが、その結果は、一番不人気なタイプとしては都市近郊型②であることが分かった。

人気住宅ランキング

住宅様式	一番憧れるタイプ (%)	一番不人気なタイプ (人数)
和風①	1位 (20.2)	2名
和風②	2位 (16.9)	16名
郊外型①	2位 (16.9)	0
都市近郊型②	4位 (15.6)	40名
都市近郊型①	5位 (14.8)	1名
都市型①	6位 (7.6)	1名
郊外型②	7位 (6.4)	1名
都市型②	8位 (1.6)	1名



都市型①



都市型②



和風①



和風②



都市近郊型①



都市近郊型②



郊外型①



郊外型②

住宅嗜好アンケート調査に用いた4様式8タイプの住宅図面